

精神疾患者の Bender Gestalt Test と HTP描画テストの比較研究

佐 藤 望

緒 言

近時、精神疾患者の臨床的心理診断にさいし、Bender Gestalt Test (BGT) と House-Tree-Person 描画テスト (HTP) が、Rorschach Test, TAT などと共に test battery に組み入れられる傾向にある。この両テストは検査手続として、白紙に画をかかせるという操作においては共通し、この意味では共に描画テストと言い得よう。しかし、両テストの理論的背景および心理的過程には基本的相異をもつ。BGT は 9 個の幾何学的刺激図形を順次に模写させることにより、視覚-運動形態機能 (visual-motor Gestalt function) のあり方を検査しようとするものである。この過程は Hutt, M. L. らの述べているように、この模写は単に刺激を正確に知覚し再生することだけではなく、刺激と有機体との関連において、その人の過去の経験との統合を確かめようとするものである。HTP は家屋画 (H), 樹木画 (T), 人物画 (男性 PM, 女性 PF) を順次に描写させる手続をとる。この心理的過程は、過去の経験において記憶し把持された表象を運動表現するものであり、得られた描画を深層心理学的、精神分析学的に意味解釈を行なおうとするものである。

今回、著者は次の二つの目的により両テストの比較検討を試みようとする。ただし、今回はテスト結果を個体の心的活動の projection として、その意味解釈の上において比較するのではなく、得られた描画の形態水準において検討を行なうものである。

- (1) BGT において、知覚心理学、神経生理学的に比較的その機序の明らかにされている視覚-運動形態機能が考えられていると同様に、HTP の表象-運動表現間にも、Gestalt 機能が考えられるか否かを検討する。
- (2) BGT においては、その意味解釈、診断類型との関係において、Hutt, M. L. その他の研究者の業績があるとはいえ、主として、精神薄弱、器質的脳障害の診断に有効とされているが、更に HTP において検証されている深層の意味解釈の関連を考察することにより、相互の解釈的指標の知見を得ようとするものである。

対象および方法

- 1 対象者 鹿児島市内の T 精神病院で入院加療中の、精神分裂病、躁うつ病、非定型精神病、アルコール中毒の患者 50 名 (表 1) で、精神薄弱を基底にもつ者、急性症状を呈する

表 1 病群別人員、年令、P-S 粗点

病 群	人 員			平 均 年 令	平 均 P-S 粗点
	♂	♀	計		
分 裂 病 (Sch)	11	10	21	29.5	58.29
躁 う つ 病 (MD)	6	8	14	32.6	73.43
非 定 型 (Aty)	3	5	8	26.0	49.0
アルコール中毒 (Al)	7	0	7	39.9	54.0
計または総合	27	23	50	31.3	60.34

SD=9.44 SD=26.96

者、および病症5年以上の者は除外した。男女比は 27:23であり、年齢は17才から58才で、平均年齢は31.3才である。

- 2 手続 本資料は昭和42年9月より約1年間の期間に患者の心理診断の際行なったテスト結果であり、すべてBGT, HTPの順に同時に施行した。検査手続は BGTはPascal-Suttel 法に、HTPは高橋の方法に従った。整理手続は、BGTはまずP-S粗点を算出し、更に本Scale中精神疾患者に出現しやすい評定項目を選出し整理した。HTPは、Buck, J. W. その他の研究者の評定項目を参照して、描画の Gestalt 機能に関連すると考える項目を設定し、BGTの項目と対応比較分析した。

結 果 と 考 察

I 形式分析

模写または描画されたテスト結果を形式的水準において、描画所要時間、描画の大きさ、描画の位置、構成度を、分裂病群 (Sch), 躁うつ病群 (MD), 非定型群 (Aty) アルコール中毒群 (Al) について検討してみる。

- 1 P-S粗点 BGTのP-S粗点は表1のごとく、各病群の平均粗点は諸家の研究結果とはほぼ一致する。躁うつ病群が最も高く 73.43, 非定型群が最も低く 49.0, 全対象者の平均粗点は 60.34, SD=26.96である。
- 2 描画所要時間 正常者の各テスト描画所要時間は、BGT, HTPの各描画、それぞれ10分間前後が普通であるが、精神疾患者においては、各テスト共所要時間が極めて短く、特にHTPにおいて顕著である。テストに関する教示終了後、描画開始までに 30秒以上を要する対象者はいなかった。描画をかきあげるまでの平均所要時間は表2のごとく、非定型群が BGT では最も

短く、HTPで最も長い。逆に分裂病群が丁度これと反対の関係を示している。この両群の各テストの関係を検定すると、すべて5%水準で有意差が認められた。これらの結果は BGT 反応過程と HTP 反応過程とでは、病型により異った機能の働くことも想定され、今後の課題として検討したい。

表2 描 画 所 要 時 間 (秒)

群 別 テスト別	Sch	MD	Aty	Al	平 均
BGT	513.2	503.8	444.5	498.6	490.0
H	170.4	172.1	214.5	255.1	203.0
T	144.7	135.5	225.6	155.7	165.4
PM	179.2	194.2	232.2	200.3	201.5
PF	179.8	167.2	246.1	247.6	210.2

各テストにおいて Sch : Aty $P < 0.05$

- 3 描画の大きさ BGTは9個の図形を、HTPは一つの画像を一枚の用紙に画くので、その占める用紙面積の大きさを一概に比較はしにくい。正常者においては両テスト共、描画の占める面積は大体用紙の $\frac{2}{8}$ 程度であるのが普通である。まず、用紙と描画の大きさの比を、 $\frac{2}{8}$ 以上=5, $\frac{2}{8} \sim \frac{1}{2}$ =4, $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$ =3, $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{4}$ =2, $\frac{1}{4}$ 以下=1,の5段階に評定した。表3のとおり、ほぼ正常者の大きさに等しい5, 4段階に属する者は、BGTでは各病群共に約85%を占め、図形が $\frac{1}{2}$ 以下に圧縮されている者は多くない。HTPでは

全般に|BGTに比し描画面積が小さい傾向を示し、特にHでは1段階の極めて小さい描画が高率を占めている。

表3 描画の大きさ

大きさ テスト	5 ($\frac{2}{3}$ 以上)	4 ($\frac{2}{3} \sim \frac{1}{2}$)	3 ($\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$)	2 ($\frac{1}{3} \sim \frac{1}{4}$)	1 ($\frac{1}{4}$ 以下)
BGT	27 (54.0)	15 (30.0)	8 (16.0)		
H	6 (12.0)	4 (8.0)	6 (12.0)	20 (40.0)	14 (28.0)
T	12 (24.0)	8 (16.0)	10 (20.0)	16 (32.0)	4 (8.0)
PM	12 (24.0)	7 (14.0)	10 (20.0)	19 (38.0)	2 (4.0)
PF	14 (28.0)	6 (12.0)	8 (16.0)	19 (38.0)	3 (6.0)

その他両テスト間、各病群間には特に関連は認められなかった。

4 描画の位置 描画の位置は、正常者では約80%が大体用紙の中央にまとまって画く

のが普通である。表4は全対象者の描画位置を示すが、中央に位置する者はBGTとHはほぼ同率であり、PM、

表4 描画の位置

位置 テスト	中	上	下	左	右
BGT	21 (42.0)	18 (36.0)	3 (6.0)	8 (16.0)	
H	20 (40.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	17 (34.0)	4 (8.0)
T	33 (66.0)	6 (12.0)	5 (10.0)	5 (10.0)	1 (2.0)
PM	37 (74.0)	2 (4.0)	7 (14.0)	3 (6.0)	1 (2.0)
PF	37 (74.0)	4 (8.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	

PFの比率は正常者のそれと大差ない。特徴は、BGTで上に偏る者、Hで左に偏る者が著しい高率を示していることである。病群別に眺めれば、BGTで上に偏る者はSch 8 (38.1%)、MD 4 (28.6%)、Aty 4 (50%)、Al 2 (28.6%)で、各群共全般に高率を示す。Hで左に偏る者はSch 9 (42.9%)、MD 6 (42.9%)、Aty 1 (12.5%)、Al 1 (14.3%)で、分裂病、躁うつ病に極めて高い。通常描画において上に偏るのは、目標に到達できない自己の存在の不確実感をあらわし、左に偏るのは、過去に退行したり、空想にとどまる傾向をあらわすものとされるが、精神疾患者に比較的多く示されるこのような状態の識別の指標にBGTと家屋画の描画の位置が有効かもしれない。

5 描画の構成度 幾何学的図形を模写するBGTと物体を描写するHTPの描画を精密性に関し同一形態水準で評定することは稍問題があるが、正常者ではほぼ同一水準の精密性があらわれる。描画の構成度について描

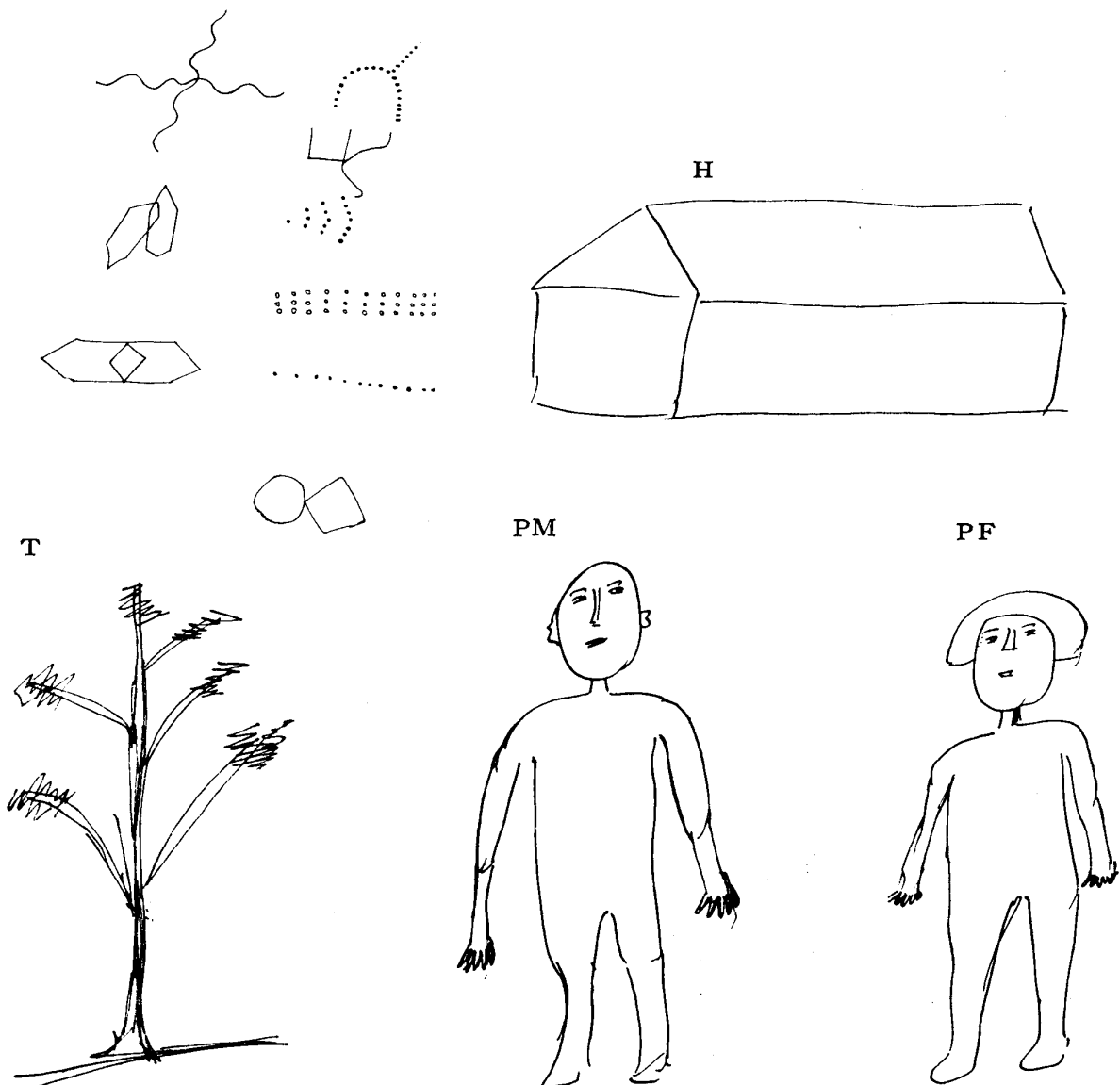
表5 描画の構成度

項目 テスト	精 密	中 等 度	粗 雑
BGT	16 (32.0)	25 (50.0)	9 (18.0)
H	11 (22.0)	18 (36.0)	21 (42.0)
T	5 (10.0)	15 (30.0)	30 (60.0)
PM	12 (24.0)	20 (40.0)	18 (36.0)
PF	12 (24.0)	23 (46.0)	15 (30.0)

画の巧劣よりも主として構成方法の正確性に関し、「精密」「中等度」「粗雑」の3段階に評定した。表5のごとく、BGTは半数が中等度の正確性を示し、「粗雑」より「精密」が優位である。しかるに HTPでは、人物画に比し樹木画の構成度が著しく不良である。各病群別のTの「粗雑」の評定をみれば、Sch 13 (61.9%), MD 10 (71.4%) Aty 4 (50.0%), Al 3 (42.9%) で内因性定型精神病が特に不良である。樹木画が基本的な自己像、すなわち自分自身についてもつ無意識像を示すとされていることから、この結果は当然ともいえるが、BGTとTを比較した場合、Tが「粗雑」であるに拘らずBGTが「精密」と評定された例が7 (14.0%) あることは、BGT解釈上吟味を必要とする課題であろう。

図1はこれに属する症例である。BGTは図Aが下にかかれ、配列が逆になっているが、図形模写の構成度としては大きな崩れは少ない。しかるに HTP はいずれの描画も正確性は極めて低い。

図1 BGT



精神分裂病 32才 ♂

Ⅱ 内 容 分 析

つぎに内容分析として、両テストについて設定した評定項目の対応関係を分析検討することにより、Gestalt 機能の関連を考察してみる。

1 BGT 評定項目

Hutt, M.L. らは BGT の意味解釈上、25 の要因を考えているが、著者は Pascal, G. らの設定した判定基準とこの両者を参照し、臨床的経験から精神疾患者に顕現しやすい 29 の評定項目を設定した。その項目は表 6 に示すが、いまここに仮説的に No. 1～12 を Gestalt 機能に基本的な一次的項目と考える。すなわち、これらの項目は発達過程の児童や精神薄弱者、器質的障害や内因的疾患者に多く顕現しやすい傾向をもつものである。No. 13～29 は正常者にも現われうるもので、知覚そのものの偏倚よりも、再生過程において顕現しやすい力動的関係に、より依存的な二次的項目と考える。

表 6 BGT 評定項目を示す群別人員

No	評 定 項 目	該 当 図 形	Sch	MD	Aty	Al	計 %
1	回 欠 分 垂	全 図	5	4	1	1	11 (22.0)
2		"	2	0	0	0	2 (4.0)
3		"	2	0	0	0	2 (4.0)
4		"	4	7	0	0	11 (22.0)
5	点 を 円 点	1.3.5 図	4	3	0	1	8 (16.0)
6	円 を 点 点	2 図	2	2	0	0	4 (8.0)
7	数 執 の 誤 謬	1.2.6 図	0	1	0	0	1 (2.0)
8		1.2.3.5 図	5	6	2	1	14 (28.0)
9	群 化 A の 位 置 重 順	2 図 体	7	5	2	2	16 (32.0)
10		全 図 体	4	2	0	0	6 (12.0)
11		"	3	2	1	4	10 (20.0)
12		"	5	5	3	0	13 (26.0)
13	ダ ッ シ ャ ン 点	1.3.5 図	5	1	1	0	7 (14.0)
14	ダ ッ シ ャ ン 点	"	8	4	3	3	18 (36.0)
15	波 状 対 称	1.2 図	9	1	2	2	14 (28.0)
16		3.4.5.6 図	11	11	3	5	30 (60.0)
17	変 形 円 角 化 点	2 図	7	0	2	3	12 (24.0)
18	斜 方 向	"	5	6	3	4	18 (36.0)
19	鈍 角	3.7.8 図	4	4	2	4	14 (28.0)
20	交 叉	6 図	7	8	6	0	21 (42.0)
21	曲 線 の と が り	"	7	3	1	3	14 (28.0)
22	不 反 結 合 復 え	7.8 図	3	3	0	1	7 (14.0)
23		全 図	6	3	3	1	13 (26.0)
24	ふ る	"	11	4	4	4	23 (45.0)
25	補 助 線	"	2	1	1	2	6 (12.0)
26	か き す	"	5	5	0	4	14 (28.0)
27	圧 境 界 縮 縮 線	全 図 体	6	2	3	1	12 (24.0)
28	境 界 縮 縮 線	"	0	1	1	1	3 (6.0)
29	相 対 的 大 き さ	"	1	1	2	1	5 (10.0)

No. 1～12 一次的項目 No. 13～29 二次的項目

評定の結果は、一次的項目では回転、歪み、点を円、数の誤謬、群化、重なり、順序がかなり高率を示し、二次的項目では非対称、ふるえ、交叉点、斜方向、ダッシュ・

点・円等が高い出現率を示す。

2 HTP 評定項目

HTPにおける分裂病のサインとして、Hammer, E.F. は20項目をあげ、高橋は15項目をあげている。著者はこれらを参照しながら、形態水準において主として構成度の観点からBGTとの関連を考慮しつつ、H=31, T=29, P=32の項目を設定した。これらの項目中比較的出現頻度の高い問題項目は、Hでは(1)立体感、遠近感のないもの、(2)壁が輪郭だけで何も無い空白なもの、(3)屋根が輪郭だけで瓦やスレート、または陰影がない空白なもの、(4)窓や戸口を全くかかないもの等である。Tでは(1)木が宙に浮いて安定感のないもの、(2)幹が二本線だけで樹皮も陰影もなく空白なもの、(3)一本線で丸味も繁みもないもの等である。Pでは(1)動作、表情に全く運動感のないもの、(2)横向きのもの(顔だけ横向のものも含めるが、PM, PF計23例中、右向は1例のみであった)、(3)頭髮が少しもなく禿頭様のもの、(4)何か衣服らしいものを着てはいるが、どのような衣服か不明瞭なもの、(5)衣服に襟、ボタン、服飾品等全くないもの、(6)足先に靴下や靴をはかず裸足のもの、等である。

表 7-a HTP 評定項目を示す群別人員とP-S粗点

H								T							
No.	評 定 項 目	Sch	MD	Aty	Al	計	P-S 粗点	No.	評 定 項 目	Sch	MD	Aty	Al	計	P-S 粗点
1	立 体 感 あり	11	8	5	4	28	49.2	1	宙 に 浮 く	5	4	4	1	14	56.7
2	" 壁 あり	10	6	3	3	22	74.3	2	地 面 線	10	7	1	4	22	55.3
3	一 面 の 壁	6	3	—	2	11	83.8	3	非 対 称	5	5	2	2	14	65.1
4	三 面 の 壁	1	3	1	—	5	74.4	4	枯 木	2	2	—	—	4	62.0
5	二 面 の 壁	14	8	7	5	34	50.7	5	曲 っ た 木	1	2	1	1	5	55.0
6	宙 に 浮 く	5	3	—	1	9	81.1	6	折 れ た 木	2	—	—	1	3	60.0
7	内 部 す み	2	1	—	—	3	87.8	7	分 離 し た	2	1	—	—	3	62.7
8	屋 根 ・ 柱 の 空 白	1	2	—	—	3	78.7	8	太 細 い 幹	1	2	3	—	6	83.3
9	壁 根 空 白	6	5	—	4	15	78.1	9	細 っ た 様 垂 直 線	4	5	—	1	10	71.7
10	屋 根 空 白	9	6	3	3	21	62.1	10	つ た 様 垂 直 線	2	2	—	—	4	81.5
11	屋 根 瓦 あ り	11	6	5	4	26	55.8	11	幹 空 白 り	13	11	6	6	36	62.5
12	屋 根 瓦 強 調	4	3	1	—	8	71.5	12	幹 陰 影 あ	5	1	2	1	9	47.8
13	三 角 屋 根	1	—	—	—	1	104.0	13	傷 痕 ・ 節 穴	1	—	2	1	4	53.0
14	窓 と 戸 口 あ り	9	4	3	2	18	51.7	14	大 き い 樹 冠	3	1	4	2	10	54.1
15	" 壁 あり	10	5	1	4	20	70.0	15	い く つ か の 小 さ な 樹 冠	3	1	—	2	6	41.0
16	窓 だ け あ り	1	4	3	—	8	50.0	16	細 長 い 樹 冠	1	—	1	—	2	60.0
17	" 壁 あり	2	1	1	1	5	67.4	17	と が っ た 樹 冠	—	3	—	—	3	68.0
18	戸 口 だ け あ り	3	1	1	1	6	66.5	18	樹 冠 空 白	2	4	—	—	16	61.0
19	" 壁 あり	—	4	3	—	7	50.9	19	樹 冠 陰 影	4	1	3	4	12	51.0
20	戸 口 把 手 あり	6	3	2	2	13	56.5	20	葉 強 調	2	3	2	1	8	74.3
21	" 壁 な し	4	1	1	—	6	53.5	21	葉 な し	3	2	—	1	6	76.7
22	基 礎 よ り 上 の 戸 口	1	2	1	—	4	49.8	22	た れ た 枝	3	1	1	1	6	58.6
23	ガ ラ ス 戸 ・ 雨 子	2	2	1	1	6	56.3	23	と が っ た 枝	3	2	1	—	6	50.3
24	窓 格 さ し	2	1	1	—	4	47.8	24	線 の 枝	5	6	—	—	11	76.5
25	窓 ひ さ し	2	—	—	—	2	58.0	25	短 線 の 枝	3	3	—	1	7	74.1
26	煙 ア ン テ ナ 突 出	1	1	1	—	3	56.7	26	根 あ り	2	2	3	2	9	46.2
27	ア ン テ ナ 木 建	—	—	1	1	2	41.0	27	根 強 調	3	2	2	2	9	68.9
28	塀 ・ 樹 木 建	1	—	1	2	4	49.3	28	す け る 根	2	1	—	—	5	71.6
29	二 階 強 調	4	2	1	1	8	56.3	29	植 鉢 ・ 花 び ん	—	2	—	—	2	87.5
30	土 台	3	2	1	1	7	40.4								
31	地 面 線	2	2	—	2	6	68.9								

P-S 粗点において $\left. \begin{array}{l} 1 : 2 \\ 3 + 4 : 5 \\ 14 : 15 \end{array} \right\} P < 0.001$

$\left. \begin{array}{l} 8 : \text{non } 8 \\ 9 : \text{non } 9 \end{array} \right\} P < 0.01$

表 7-b

PM								PF					
No.	評 定 項 目	Sch	MD	Aty	AI	計	P-S粗点	Sch	MD	Aty	AI	計	P-S粗点
1	運 動 感 あ り し	8	5	6	2	21	44.8	8	6	6	2	22	53.2
2	" 性 差 不 明 常 向	13	9	2	5	26	71.3	13	8	2	5	28	69.4
3	性 部 分 異	5	5	1	1	11	79.9	1	2	1	2	6	81.7
4	横	2	3	1	1	5	64.6	3	2	1	1	6	75.0
5		4	2	3	3	12	66.3	3	4	4	1	11	56.8
6	上 半 身 の み	2	1	1	1	4	70.0	1	1	1	1	1	104.0
7	大 半 身 の 頭 し	3	4	1	2	9	56.7	5	4	1	1	10	64.0
8	頭 髪 の 髪	4	3	1	3	10	90.4	1	1	1	1	1	—
9	黒 髪 の 髪	2	3	1	1	7	63.7	2	2	1	1	5	85.2
10		4	3	1	1	9	60.7	9	6	1	1	16	67.9
11	黒 髪 の 髪	10	5	6	2	23	50.9	10	5	8	5	28	51.1
12	耳 欠 如	6	4	1	2	12	74.1	4	1	1	1	5	69.4
13	眼 強 調	3	2	2	2	9	62.6	4	2	1	1	7	58.0
14	白 眼 首	2	5	1	2	10	62.0	4	2	1	3	9	60.6
15	長 眼 首	4	3	2	1	9	75.7	6	3	2	1	11	79.9
16	短 腕 脚	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	1	31.0
17	短 腕 脚	4	1	1	1	5	65.6	3	3	1	1	8	66.1
18	長 腕 脚	1	3	2	2	8	64.6	1	1	1	2	3	69.7
19	長 腕 脚	1	1	1	1	1	34.0	1	1	1	1	2	97.0
20	脚 欠 如	1	1	1	1	2	57.5	1	1	1	2	4	44.0
21	腕 欠 如	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	2	70.5
22	手 足 の 不 釣 合	1	1	1	1	1	67.0	1	2	1	1	5	38.0
23	か け 着 衣 服	2	1	1	1	3	86.3	2	2	1	1	5	71.4
24	す け 着 衣 服	2	1	1	1	2	87.5	2	1	1	1	3	69.3
25	不 明 瞭 な 衣 服	4	5	3	2	14	79.4	5	6	2	1	14	77.8
26	装 飾 な し	5	4	2	1	12	52.0	6	4	2	1	13	62.2
27	" 多 し	1	1	1	1	1	39.0	2	1	1	1	4	53.5
28	ボ タ	10	7	3	3	23	53.6	8	5	2	3	18	68.6
29	裸 体	4	1	1	1	5	48.2	3	1	1	1	4	50.3
30	裸 足	8	6	4	3	21	57.7	11	6	2	3	22	66.6
31	生 殖 器	1	1	1	1	1	40.0	1	1	1	1	1	—
32	乳 房	1	1	1	1	1	—	4	1	1	1	5	48.4

P-S粗点において 1 : 2, 3 : non 3, 8 : non 8 $P < 0.001$

3 HTP評定項目とP-S粗点との関連

表7はHTPの評定項目を示す病群別人員およびその平均P-S粗点（以下単に粗点という）である。概して、Machover, K., Hammer, E. F., 高橋らの示す分裂病サインに関連する項目の粗点は高い。以下描画別に検討してみる。

(1) 家屋画 i) 家屋画の構成上、立体感ないし遠近感がまず問題になる。立体感のある者は28 (56.0%)，平面的で立体感の感じられない者は22 (44.0%)であり、粗点を検定すると、.1%水準の有意差で前者が低い (No.1,2)。ii) 壁の画き方は、一面のみの壁および三面が同時にみえる壁を画く者は、二面の壁を画く者に比し粗点が高く、.1%水準で有意である (No.3,4,5)。iii) 家屋画は窓、戸口を画き外界との疎通を示すのが普通であるが、窓と戸口を描く者は18 (36.0%)で、これらが全くなく外界との交通が遮断されている者は20 (40.0%)である。後者は前者に比し、.1%水準の有意差で粗点が高い (No.14,15)。iv) 壁や屋根が空白なものは一般に粗点は高いが有

意差は認められなかった。v) 煙突, アンテナ, 二階建, 周囲の塀や樹木をかき, 描画を明細化する者は症例が少ないが概して粗点は低い。

(2) 樹木画 i) 樹木は根, 幹, 枝, 樹冠からなるが, まず幹は, 極端に太い幹, 細い幹をかく者は普通の太さの者に比し1%水準の有意差で粗点が高い (No.8,9)。幹が空白なものと陰影をつけるものとは, 見かけ上の粗点の開きを示すが有意差は認められなかった (No.11,12)。ii) 樹冠をかくものは一般に粗点が低く, いくつかの小さな樹冠を組み合わせて構成するものは特に低い (No.14,15)。樹冠の陰影の有無については有意差は認められなかった (No.18,19)。iii) 枝を一本線でかいたり, 短線のよせ集めでかく者, また葉だけを強調して丹念にかいたり, 大きくかく者, 葉のない者は粗点が高い (No.24,25)。iv) HTP解釈上問題になる枯木, 曲った木, 折れた木, 分離した木, たれた枝, とがった枝などは特に高い粗点は示さなかった。

(3) 人物画 i) 運動感についてはPM, PF共に, ある者約40%, ない者60%で粗点はかなりの開きを示し, ない者が1%水準の有意差で高い (No.1,2)。ii) 男性像か女性像か性別の判然としないものは粗点が著しく高い (No.3)。iii) 頭髪を黒く塗らないで輪郭だけの者と黒い頭髪では, 後者が粗点の低い傾向にあるが有意差は認められなかった (No.10,11)。また頭髪をかかない者の粗点は著しく高い (No.8)。iv) 顔部分の欠如では耳の欠如が多く現われ粗点も高い (No.12)。首が細く長いものは高い粗点を示す (No.15)。v) 型体の判然としない曖昧, 不明瞭な衣服や, 身体のすけてみえる衣服をかく者の粗点は高く (No.24,25,26), 衣服や髪 of 装飾が多く, 帽子や持物のある者の粗点は低い傾向にある (No.27)。vi) 分裂病サインの一つである裸体, 生殖器, 乳房をかく者の粗点は概して低い (No.29,31,32)。

4 両テスト評定項目の対応分析

以上, HTP 評定項目に対する平均P-S粗点についてその特徴を検討したが, 更に両テストの評定項目の対応関係表を作成し, 対応項目すべてについてその項目要因の出現している群と出現しない群を 2×2 分割表により χ^2 検定を行ない両テストの項目間にもどのような関係があるか検討した。検定の結果, 有意差の認められた χ^2 値およびその近似値を表8にあげる。

P-S 粗点は BGT の問題要因の加算的総和としてあらわされるだけであるので, 更にこれを項目分析し, HTPの問題項目がBGTのどのようなGestalt機能項目と関係をもつかを明らかにすることが必要である。

(1) BGTの分析は, はじめに仮説した一次的項目と二次的項目の考え方に従って検討すると, Hの立体感なし, 宙に浮いた家, 1・3面の壁, 窓・戸口なし, 壁空白, Tの線の枝, 細い幹, Pの性差不明, 頭髪なし, 黒くない髪, 不明瞭な衣服については, 一次的項目に高い χ^2 値を示している。このことから, これらのHTP項目は描写の運動表現にさいし, BGTの視覚-運動関係にみられると同様の Gestalt 機能が関与すると思われる。またこの結果を逆に推定すれば, BGTの一次的項目は事物の三次元的構造の認知と, 外界認知の基本的形態の明細化に関連をもつと考えることができよう。

(2) Tの幹空白, 樹冠空白, およびHの屋根空白が, Hの壁空白と同様にGestalt機能に深い関連をもつことを想定したが, これらはいくつかの二次的項目に近似値を得るのみ

表8 両テストの項目分析における χ^2 値

BGT HTP		点を円	回転	歪み	数の誤	群化	順序	重なり	図A	曲線の とがり	非対 称	交叉点	不結 合	鈍角 化	ダ ッ シ ュ 点 ・ 円
H	立 体 感	3.71	17.95 ^{...}	4.72 [.]	5.94 ^{..}	9.18 ^{...}					4.88 [.]	2.54			
	宙に浮く	24.67 ^{...}	9.10 ^{...}	4.35 [.]		8.09 ^{...}				10.44 ^{...}	6.35 ^{..}	4.26 [.]			
	1.3面壁		16.08 ^{...}	8.29 ^{...}		10.06 ^{...}									
	窓・戸口 なし	5.76 ^{..}		5.70 ^{..}		2.92 ^{..}				8.69 ^{..}					
	壁 空 白	9.18 ^{...}	4.05 [.]	4.05 [.]		7.72 ^{..}		5.36 [.]		10.88 ^{...}					
T	太 い 幹	2.45			4.08 [.]							8.76 ^{...}			
	細 い 幹		4.55 [.]				6.06 [.]		7.91 ^{...}						
	線 の 枝	4.35 [.]		14.25 ^{...}	8.89 ^{...}										
	幹 空 白														3.33
P	運 動 感	3.40 [.]		3.29 [.]							7.24 ^{..}				
	性差不明	4.35 [.]		4.52 [.]		10.75 ^{...}				8.89 ^{...}				4.93 [.]	
	頭髮なし	5.36 [.]	5.71 ^{..}			7.44 ^{..}		3.13 [.]		10.94 ^{...}					
	黒くない 髪		8.63 ^{...}				5.11 [.]								
	不明瞭な 衣服	13.99 ^{...}				5.65 ^{..}				4.67 [.]	5.36 [.]	3.51 ^{...}	9.63 ^{...}		
	白 い 眼	5.36 [.]								6.35 ^{..}					
	長 い 首										3.86 [.]	5.77 ^{..}			
	大きい頭 部分異常										7.32 ^{..}				6.51 ^{..}
										10.36 ^{...}					

・ $P < 0.05$.. $P < 0.02$... $P < 0.005$

で有意差のある項目は得られなかった。これは、家屋における壁は家屋を構成する主体的要因であるに対し、屋根瓦や幹、樹冠の樹皮、陰影は構造認知上、周辺の機能に依存するものと考えられよう。

(3) Pの運動感が絵画的には一見立体感と同様の機能をもつと考えられやすいが、この項目は僅に非対称の項目に有意差が認められたのみで、一次的項目との関連は認められなかった。

(4) BGTの二次的項目と考えられる曲線のとがり、非対称、交叉点にかなり多くのHTP項目との関連が認められたが、BGTのこれらの項目が知覚の偏倚に関連する要因よりも模写の運動過程に多く依存すると考えられることから、HTP描画については表象の表

現運動の機能の良否が、表象そのものの貧困性、未分化性と同時に検討吟味されねばならないであろう。また、逆にこれらの二次的項目を一次的項目と考えるのが適當かもしれない、更に検討を要する。

総 括

精神疾患患者50名にBGT, HTPを施行し、その結果を形態水準の観点から形式的、内容的に分析比較して次の結果を得た。

- 1 両テストの所要時間で非定型群と分裂病群が逆の関係を示したことから、模写と、表象の描写の過程には病型による相異の存在が暗示された。
- 2 描画の位置はBGTは上に、家屋画は左に偏る者が多く、特に分裂病群、躁うつ病群に顕著であった。
- 3 描画の構成度は、概してBGTよりHTPが不良で、特に樹木画が顕著であった。
- 4 HTPの立体感、運動感の有無については、P-S粗点との関連では共に有意差が認められたが、項目分析においては立体感はBGTの一次的項目と強い関連をもつものに対し、運動感は関連が認められなかった。
- 5 BGTの一次的項目に対応するHTPのいくつかの項目が検出され、それらについては、視覚-運動関係と同様のGestalt機能が表象-運動表現間にも存在すると考えられるが、更に多くの症例について吟味する必要がある。

文 献

- 1) Buck, J.N. : The quality of the quantity of the H-T-P. J. clin. Psychol., 1951, 7, 352-356.
- 2) Hammer, E.F. : Guide for qualitative research with the H-T-P. J. gen. Psychol., 1954, 51, 41-60.
- 3) Hutt, M.L. & Brinkin, G.J. : The clinical use of the Revised Bender Gestalt Test. Grune & Stratton, 1960.
- 4) Pascal, G. & Suttel, B. : The Bender-Gestalt Test, quantification and validity for adults. Grune & Stratton, 1951.
- 5) Schulberg, H.C. & Tolor, A. : The meaning of the Bender-Gestalt Test designs to Psychiatric patients. J. proj. Tech., 1962, 4, 455-461.
- 6) 青木孝悦, 大岩洋子 : Bender Gestalt Testの妥当性について. 臨床心理学研究, 1967, 6巻3号, 137-143.
- 7) 高橋雅春 : 描画テスト診断法. 文教書院, 1967.
- 8) 高橋雅春, 萱場徳子 : 精神分裂病を伴う非行少年に試みたHTPテスト. 矯正医学, 1967, 16巻1号, 19-23.